

JPNIC Update

第49回JPNICオープンポリシーミーティング(2025/11/19)



一般社団法人 日本ネットワークインフォメーションセンター

Copyright © 2025 Japan Network Information Center

▶▶▶ 036-01 : JPNICにおけるWHOIS正確性向上の検証

提案番号	提案名	JPNICでのステータス
036-01	JPNICにおけるWHOIS正確性向上の検証	順次施行中

提案内容

検査の具体的な手法や頻度等を検討するためのワーキンググループ(WG)設置
Abuse問い合わせ先に対する正確性を確認ための検査を実施

提案への対応

WGの設置とWGでの議論

完了

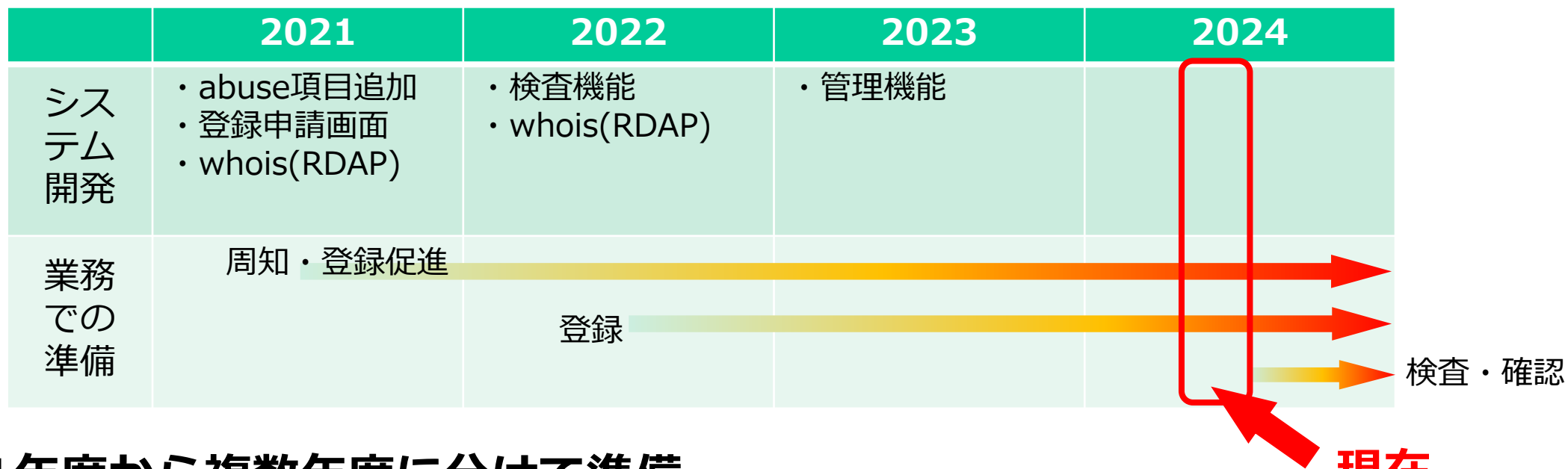
JPNICデータベースに[Abuse]の項目を追加

2022年8月22日より登録開始

登録された内容の検査

~~2023年度中に開始予定(現在準備中)~~ → **2024年度中に開始予定(現在準備中)**

▶▶▶ 対応の進め方(JPOPM44でのご報告内容をアップデート)



2021年度から複数年度に分けて準備

登録環境の整備(2021年度)

登録を促進するための周知活動(2022年度)

検査開始と適切な検査手法の調整・検討(2022年度)

検査状況の確認など、管理機能の整備(2023年度)

ドキュメント・業務手順などの整備(2024年度)

Abuse登録状況(2025/11/18時点)

Abuse登録済

Abuse未登録

IPv4

割り振り

4507

124

割り当て

558442

IPv6

割り振り

472

11

割り当て

1473

4290

AS

64

756

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

みなさまへのお願い

Abuseの登録をお願いします

現時点では必須ではありませんが、状況を見て必須にする予定です

情報変更の手続きは…

ご自身の組織がIPアドレス管理指定事業者の場合

IPアドレスを管理されている部署の担当者に依頼

一括での登録はIPアドレス担当(ip-service@nir.nic.ad.jp)までお問い合わせ

プロバイダ等からIPアドレスの割り当てを受けている場合

プロバイダのご担当者へ情報変更を依頼

Network Information: [ネットワーク情報]

a. [IPネットワークアドレス]	192.41.192.0/24
b. [ネットワーク名]	JPNICNET
f. [組織名]	一般社団法人 日本ネットワークインフォメーションセンター
g. [Organization]	Japan Network Information Center
m. [管理者連絡窓口]	SS54384JP
n. [技術連絡担当者]	YK11438JP
n. [技術連絡担当者]	EK6175JP
n. [技術連絡担当者]	TK74577JP
n. [技術連絡担当者]	NH27225JP
n. [技術連絡担当者]	KG13714JP

o. [Abuse] **hostmaster@nic.ad.jp**

※登録がない場合には、
o. [Abuse]の項目名の
み表示



▶▶▶ APNICミーティングでコンセンサスとなった提案

提案番号	提案名	APNICでのステータス
prop-154	Resizing of IPv4 assignment for the IXPs (IXP向け割り当てアドレスサイズの変更)	APNICによる実装済み
prop-156	Assignment of Temporary IP Resources (IPリソースの一時的な割り当)	

各提案への対応

APNICのドキュメント改定内容をもとに、JPNICの関連文書の改定準備中

APNIC Update

第49回JPNICオープンポリシーミーティング(2025/11/19)



一般社団法人 日本ネットワークインフォメーションセンター

Copyright © 2025 Japan Network Information Center

▶▶▶ APNIC60(2025年09月04日~09月11日)

ベトナム・ダナンにて開催
APNIC43(2017年, ホーチミン)以来

参加方法：オンサイト/Zoom/YouTube Live

参加国数：40カ国(経済圏等含む)

現地参加者数:451名 オンラインのみ60名



昨年の単独回(APNIC58, NZ, ウェリントン)と比較すると100名以上増加。ベトナムのアクセスの良さか。参加国数は減少(オセアニア島しょ部の影響?)

▶▶▶ 現地の様子



APNIC 60 Flickrより引用
<https://flic.kr/s/aHBqjCtnTU>

▶▶▶ プログラムについて

- Workshop

 - Network Management, Advanced Routing etc...

- SIG(Special Interest Group)

 - Cooperation , Policy, NIR, Routing Security

- Technical/FIRST Security/LT

- ICP-2, By-laws consultation, SIG-Guideline review

- BoF

- 共催イベント

 - AP Star

 - APIX

- その他

▶▶▶ 選挙について

NRO NC選挙-Devesh Tyagi氏(インド/NIXI)が初当選

- 現職Di Ma氏(中国/ZDNS)を含む4名が立候補。
- Devesh氏が300票以上の大差で当選。
- Devesh Tyagi氏はインドのNIR IRINNの運営母体NIXI CEO
- APNIC理事会指名枠は引き続きJPNIC 前村に
 - APNIC EC reappoints Akinori Maemura to NRO NC
<https://blog.apnic.net/2025/10/01/apnic-ec-reappoints-akinori-maemura-to-nro-nc/>

任期は2026年1月～12月の1年間

▶▶▶ 選挙について②

SIG Chair選挙の結果

- Cooperation SIG Chair : Joy Chan氏(現/TWNIC)
- NIR SIG Chair : Oanh Nguyen氏(現/VNNIC)
- Policy SIG Chair : Bikram Shrestha氏(新/Nepal Internet Foundation) ⇒ Cooperation SIG Co-chairは退任
- Policy SIG Co-Chair : Shaila Sharmin氏(現/Prime Bank PLC)
- Rooting Security SIG Chair : Terry Sweetser氏(新/IEISI.ORG)

- IANA RC: Tomohiro Fujisaki氏(新/NTT DOCOMO BUSINESS, Inc.)

▶▶▶ APNIC ECに関する定款変更について

APNIC ECの任期に関する定款の変更を検討中
意見募集のセッションが開催された。

By-laws Consultation: Share Your Feedback to the EC

変更点

- ・ ECの任期を2年⇒3年に変更する。⇒賛成
- ・ 任期制限を設け、最大3期までとする。
⇒即時適用はノウハウを失う？1期の猶予(段階導入)が適當？

女性や小規模経済圏など多様性は？ NomCom制度は？

投票は次回APNIC61以降に。

▶▶▶ SIGガイドラインの見直しについて

SIGのチェア・コチェアについても見直しの提案が行われている

変更提案ポイント

- ・ 2年3期以上の連続任期を禁止。
- ・ 同一組織・グループからの同時排出制限。
- ・ 利害関係・所属の申告を義務化
- ・ ECによるSIGチェア解任裁量の付与

⇒ガイドラインで権限付与？

規制は結果的にコミュニティを盛り下げる。

⇒現形式ではなく、ガイドライン全体の見直しという形で再調整へ



Resource delegation audit(リソース委任監査)について

2023～2024年にかけて

IRINN(インド)/IDNIC(インドネシア)でポリシーに準拠しないアドレス分配があったことが報告される

APNICは全NIRの過去10年分のアドレス分配・移転がポリシーに準拠したものか調査に乗り出す。

APNIC and NIRs take action on preliminary delegation audit results

<https://blog.apnic.net/2024/12/17/apnic-and-nirs-take-action-on-preliminary-delegation-audit-results/>

第1弾: JPNIC (2025/1-2) : 問題なし

Resource delegation audit update at APNIC 59

<https://blog.apnic.net/2025/02/27/resource-delegation-audit-update-at-apnic-59/>



Resource delegation audit(リソース委任監査)について

第2弾：VNNIC、が続報なかなか出ず…

APNIC60の間でも最終調整中と煮え切らない報告のみに…

<https://blog.apnic.net/2025/09/15/resource-delegation-review-update-q3-2025/>

2025/10/22：VNNIC resource delegation review update

<https://blog.apnic.net/2025/10/22/vnnic-resource-delegation-review-update/>

濁した言い方だけど、怪しいものが発見されている…？

一次チェックとのことなので引き続き追いかけます。。

Policy SIG: コンセンサス確認の方法

コンセンサスは挙手で確認

オンラインではConfer (<https://confer.apnic.net>)による意見表明が可能

Proposals:

Test Proposal

prop-130:
Modification of
transfer policies (IPv4
only)

prop-130:
Modification of
transfer policies (IPv6
only)

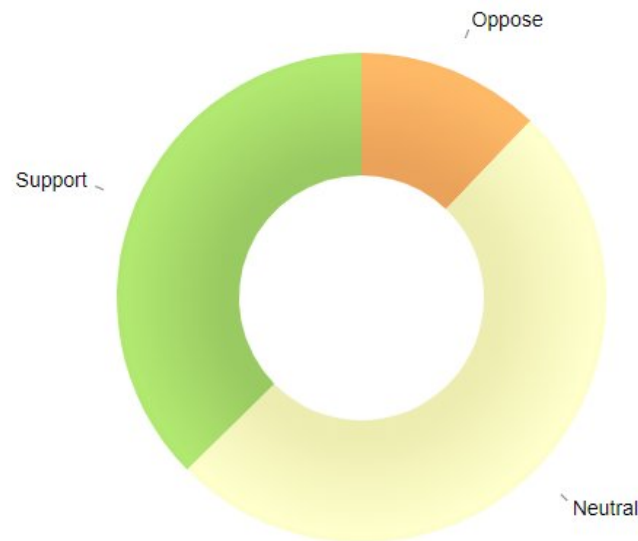
prop-130:
Modification of
transfer policies (ASN
only)

prop-133: Clarification
on Sub-Assignments

This proposal is not currently under discussion. There is no current proposal under discussion.

This is the online consensus for proposal: Test Proposal.

"This is a test proposal for practice session."



▶▶▶ アドレスポリシーに関する議論

5件の提案について議論。

prop-162 : 「バルクアクセスによるWHOISでの情報公開」
<https://www.apnic.net/community/policy/proposals/prop-162/>

prop-164 : 「IPv6最小割り振りサイズの変更」
<https://www.apnic.net/community/policy/proposals/prop-164/>

prop-165 : 「IPv6ネットワークへの移行を目的としたIPv4アドレスの割り振り」
<https://www.apnic.net/community/policy/proposals/prop-165/>

prop-166 : 「継続して機能しない認証局が発行するリソース証明書の失効」
<https://www.apnic.net/community/policy/proposals/prop-166/>

prop-167 : 「WHOISおよびRDAP サービスの使用状況の公開」
<https://www.apnic.net/community/policy/proposals/prop-167/>



prop-162 : バルクアクセスによるWHOISでの情報公開

提案内容

APNICはバルクWHOIS上の住所、電話番号、FAX番号、メールアドレスおよびOrg、IRT、roleオブジェクトに含まれる連絡先情報を非公開とする。

目的

WHOISの目的外利用(セールス活動)と思わしき行為を確認

バルクWHOIS(一括取得)を対象に制限しよう

⇒どうもバルクだけでは抑制難しそう…？

⇒全部対象だ！！(前回)



prop-162 : バルクアクセスによるWHOISでの情報公開

(前回APNIC59での)提案内容

1. APNICは公開WHOIS上の住所、電話番号、FAX番号、メールアドレスおよびOrg, IRT, abuse-c, roleオブジェクトに含まれる連絡先情報を削除する。
2. MyAPNICおよび認証済みAPIでのアクセスのみ連絡先情報を入手できるものとし、認証されていないAPIからのアクセスでは連絡先情報を開示しないものとする。
3. バルクWHOISのデータから連絡先情報を削除する。
4. 既存のバルクデータユーザーに連絡先情報をインターネット公開データ・システムから削除することと義務付ける。
5. APNICは認証済みAPIユーザーのリストと連絡先リクエストの統計情報を公開する。



prop-162 : バルクアクセスによるWHOISでの情報公開

⇒全部隠すのは使い勝手的にちょっと...となり前回コンセンサスならず
提案を通すにはどうすればよいか。

⇒バルクWHOISのみは好意的だった。すべてに対応するよりはまずはバルク
だけ？

会場の意見

- 反対意見ナシ

⇒賛成多数でコンセンサス

prop-164: IPv6最小割り振りサイズの変更

提案内容

IPv6の最小割り振りサイズを/32から/36へ変更する。

(prop-159と同じような提案に見えますが、あの時は料金対策を理由とし、提案者も不在に...)

目的

現行の/32の割り振りでは余剰が多い場合があり、/36を利用しようとするとき再割り当てができず、WHOISに正確なレコードを登録できないと指摘。そのため、最小割り振りサイズを/36に引き下げ、正確なWHOIS登録を可能にしたい。

prop-164: IPv6最小割り振りサイズの変更

会場の意見

- /32であることによって生じる不正確性・問題の発生がピンと来ていない...
- APNICリザーブブロックへの影響は？⇒この変更で大きな影響はなさそう？

⇒問題意識が共感を得られず...

コンセンサス確認も挙手まばらであったが反対多数でコンセンサスには至らず。

⇒反対者はその理由を表明してほしい

▶▶▶ prop-165 : IPv6ネットワークへの移行を目的としたIPv4 アドレスの割り振り

提案内容

- IPv6-onlyネットワークを構築する場合に、DNSやメールなど重要なサービスのIPv6への移行完了までの過渡期における対応として、最小限必要となるIPv4アドレス(/24)の割り振りを行う。
 - 割り振りを受けたIPv4はIPv6ネットワークのサポートのみに使うこと
 - IPv6返却時にはIPv4も併せて返却すること
 - IPv6ネットワークの実装完了時にはIPv4を返却すること
 - 本ポリシーでの割り振りは最後の/8割り振りにカウントする
 - 割り振られたIPv4アドレスは移転・リースを禁止する

目的

IPv6-onlyのネットワークを構築しようとする組織はIPv6の取得基準を満たせても、IPv4の取得基準を満たせず、移行期に必要なIPv4が入手できない可能性がある。本提案では、IPv6アドレスの割り振り基準を満たした組織に対し、過渡期対応に必要なIPv4アドレス/24を割り振る仕組みをこういった事態が起こる前に制度化したい。

▶▶▶ prop-165 : IPv6ネットワークへの移行を目的としたIPv4 アドレスの割り振り

会場からの意見

- 現状困っている人がいないので考えにくい...？
- IPv4がそもそも後何年継続して分配できるのか⇒現ペースで3年？
- 既存のポリシーで十分？逆にこのポリシーが実装されると料金対策や需要確認を回避する手法になってしまわないか。
- IPv6実装完了の判断基準、リース不可の定義、確認主体が明確でない...
- IRINN(インド)では同等のポリシーがある

⇒提案者と参加者間のイメージのズレが埋めきれず。

中立多数で賛成反対拮抗したもののチェア判断でコンセンサスには至らず。

▶▶▶ prop-166 : 継続して機能しない認証局が発行するリソース 証明書の失効

提案内容

APNICより委任された委任型RPKI認証局(CA)について、現在のマニフェストと失効リスト(CRL)を2ヶ月以上発見または検証できない場合、その委任されたCAのリソース証明書をAPNICが失効することとする。

目的

委任型RPKI CAの中には管理が放置されているものがあり、これらは単に放置されているだけでなく、オフラインや古いデータの同期試行を繰り返し、システムに大きな負荷を与える。これらの負荷を軽減するために、委任する立場にあるAPNICに執行権限を付与したい。

▶▶▶ prop-166 : 継続して機能しない認証局が発行するリソース 証明書の失効

MLでの議論は

- 多くの技術者から賛同！

会場での議論

- これってそもそもポリシーで決める話なのか？レジストリの裁量で決めてよい話なんじゃ？の意見で大紛糾
⇒事務局からサービスレベルの話でポリシーなしで対応可能との見解
- ただすでにPDPに乗っちゃってるしどうしようね...

⇒この場ではコンセンサス確認を行い、コンセンサスに至る。ただし以降ECによる実装判断プロセスで事務局から進言しドロップさせる方針に。



prop-167 : WHOISおよびRDAP サービスの使用状況の公開

提案内容

WHOISおよびRDAPサービスの使用状況を以下のように一般に公開するよう、APNICに求めることとする。

- 毎時で情報更新すること
- 集計項目:
 - WHOIS/RDAPのクエリ数
 - 送信元ASN (上位1000ASN)
 - ASNごとの送信元IP数
 - クエリの種類・メソッドなどのメタ情報
- 公開形式:JSONやCSVなど機械可読フォーマット
- MyAPNICポータル機能拡張
- 自分のアロケーション(IPアドレスやASN)がどれだけ検索されたかを可視化
- 「どのASNから検索されたか」「どのクエリタイプか」まで表示



prop-167 : WHOISおよびRDAP サービスの使用状況の公開

目的

レジストリに登録された情報がどのように使われるのか登録者には「知る権利」が存在する。容易に確認できる方法を用意すべきである。

会場からの意見

概ね賛成だがVer.2で追加したMyAPNICの機能拡張は実装に推定12か月かかるとのこと。であればそこまでの負荷はかけずVer.1で良いのでは？

⇒提案者からVer.1でコンセンサス確認できるかチェアへ確認。

⇒一度Ver.2を出した以上コンセンサス確認はVer.2で行うことに。

賛成多数でコンセンサスに。以降の実装に関しては提案者と調整か。

▶▶▶ 次回のAPNICミーティング

- **APRICOT2026/APNIC61**

日時： 2025年2月4日～12日

(残念ながらJANOG57と一部重複に…)

場所：インドネシア・ジャカルタ

<https://2026.apricot.net>

次回、単独回はインド・ムンバイ



参考: APNICミーティングはどこで開催されるの？

<https://blog.nic.ad.jp/2021/5846/>

APNICミーティングWebページ

<https://www.apnic.net/events/conferences/>

APIGA2025 参加報告

第49回JPNICオープンポリシーミーティング(2025/11/19)



一般社団法人 日本ネットワークインフォメーションセンター

Copyright © 2025 Japan Network Information Center

▶▶▶ APIGAとは

APIGA (Asia Pacific Internet Governance Academy)

インターネットガバナンスに関する基礎知識を学び、アウトプットのスキルを磨くことを目的とした合宿形式のプログラム

主催 : ICANN、KISA (Korea Internet and Security Agency)

対象 : U35のYouth世代

開催 : 年1回、2016年以降毎年開催(一時オンライン開催あり)

選考 : ローカルAPIGA(一部開催国)選考通過者

ICANN選考、KISA選考、その他

▶▶▶ APIGA2025

期間：2025年8月18日～22日 約1週間

場所：韓国・釜山

参加者数：40名



▶▶▶ 事前学習

なかなか大変な事前学習期間…

- ・ 週1回のWebinar
- ・ APNIC Academy
- ・ ICANN Learn
- ・ ISOC Learning

この他、開始前からグループワーク課題やチームミーティングを複数回(時差都合で集合が夜遅い時間になることもしばしば)

▶▶▶ そして本番、韓国へ…

APIGA2025 Program

<https://icann-community.atlassian.net/wiki/spaces/GSEAPAC/pages/375848961/APIGA+2025+Program>

- ・ 朝9時から18時までセッションでパンパン。
- ・ 終わり次第明日のグループワークに向けたチーム準備
- ・ それでも終わると飲みに出たりも

▶▶▶ Program Pickup①

IGF Workshop Proposal Exercise

APrIGFでのプログラム提案を想定
グループでテーマを決め、提案書を準備

プレゼンテーションをして講師から
フィードバックを受ける



▶▶▶ Program Pickup②

ICANN Mock Conference 模擬ICANNコン

**GAC,GNSO,ALACに分かれ1人1役のRP
実際のカンファレンスの流れで行う**

**テーマ「次の新gTLD募集開始前にDNS
Abuseを解決すべきか。また、どのTLD
を優先して実装すべきか」**



▶▶▶ Program Pickup③



IP/DNS GO

インターネットの構図を簡略化し、わかりやすくプレイできるゲーム。

リボンをネットワークに見立てつなぐ。
小中学生でもイメージできる。

DNSSECは署名を紙に書いて歩き回りました。。



▶▶▶ Program Pickup④

APNIC PDP Roleplay

模擬Policy SIG

実際と同じようにスタンドマイクから
提案者に意見・質問

馴染みがないとやや難しいか。

これを契機に場の存在を知り、参加者
を増やすのは重要。



▶▶▶ 所感

とてもハードなプログラムでした…
一方で得られるものも大きな機会でした。

- ・ 英語力の必要性(自分が伝えたいことを伝えきる難しさ)
- ・ 存在感を示すには
⇒とにかく主張する、重要なタイミングをつかむ、役割を担う
どの方法でどのように動くべきか
- ・ 信頼関係の構築

IGという個人的にも新しいフィールドに触れながら非常に学びの多い機会となりました。来年はぜひあなたもチャレンジしてみませんか？

▶▶▶ ありがとうございます！

APIGA参加報告はJPNIC Blogでも記事として投稿しています。

興味がございましたら是非お読みください。

APIGA2025に参加してきました。
<https://blog.nic.ad.jp/2025/10983/>



APIGA2025に参加してきました。

ip_team 2025年9月22日 インターネットガバナンス 他組織のイベント

JPNIC IP事業部の中川です。2025年8月18日(月)～22日(金)の5日間にAPIGA2025が韓国・釜山にて開催されました。今回、私は一参加者として参加してまいりましたので、その様子を紹介できればと思います。

2023年に前村が講師として参加した際の報告は[こちら](#)。

APIGA2025のカンファレンスページは[こちら](#)。

APIGAとは何か

APIGA (Asia Pacific Internet Governance Academy) は、35歳以下のユース世代を対象に、インターネットガバナンスに関する基礎知識を学び、アウトプットのスキルを磨くことを目的とした合宿形式のプログラムです。ICANNと韓国インターネット振興院 (KISA: Korea Internet and Security Agency) が主催し、2016年から(コロナ禍の期間を除き) 継続して開催されています。

参加者は約40名で、そのうち3分の1ほどがKISA経由で選考された韓国の学生・若手、残りはICANNの選考を通過した人々です。さらに一部の国では、ローカルIGAと呼ばれる国内版プログラムを先に実施し、その優秀者が地域代表としてAPIGAに派遣される仕組みも取り入れられています。

メインとなる参加層は学生ですが、分野はインターネットに限らず、AIや法律を専門とする人も見られました。また若手社会人の参加も多く、ドメイン名レジストリやCERT (Computer Emergency Response Team)、政府機関、権利団体など、実に多様なバックグラウンドを持つ人々が集まっていました。

